

結果ノ簡  
數ヲ定ム  
ル標準

(丙)

多數ノ行為カ單一ノ結果ヲ伴フトキ(再三發砲シテ一人ヲ殺セル場合)  
 多數ノ行為ヲ合シテ一罪トスルハ其性質カ同一ナルニ因ル而シテ性質カ同一ナルヲ理由トスルニハイ(其多數ノ行為カ同一ノ法益ニ對スルコト)(其行為カ同種ノ方法ヲ以テ實行セラレタルコトノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス。  
 而シテ結果カ單一ナルヤ否ヤハ概括的ニ説明スルハ困難ニシテ各場合ニ於テ具體的ニ定メサル可カラスト雖モ通常結果ノ簡數ヲ定ムルニハ人の法益ト物的法益トノ二ニ分ツテ説明スルヲ一般トス。  
 即チ人格ト分離ス可カラサル法益(例ハ生命身體)ヲ侵害スルトキハ被害者ノ數ニヨリテ結果ノ數ヲ定メ  
 人格ト分離シテ成立スルコトヲ得ヘキ法益ヲ侵害スル場合ニ於テハ前上ノ規則ニ從フコトナク個々ノ物件ヲ包括的ニ觀察シ其物カ同一ノ監督内ニアルトキハ所有者ヲ異ニスルトキト雖單一ノ結果ヲ醸成シタルモノトシ單一ノ行為ヲ成立セシムルモノトス。

行為カ單一ナルトキハ罪トス

一行為ニ對スル法例上多數ノ行為トスル連續犯トス

叙上ノ結果ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムル標準ハ素ヨリ法益カ財産的法益及人格的法益ナル場合ニ限ルコトヲ忘ル可カラス。  
 以上ハ行為ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムル標準ニシテ此ノ標準ニ因リ單一ノ行為アルトキハ罪ノ簡數モ亦一箇ナリ、換言スレハ一行為カ一罪名ニ觸ルルトキハ常ニ一罪ナリ、多數ノ罪名ニ觸ルルトキモ亦一罪ナリ、且一ノ行為カ多數ノ結果ヲ伴フトキハ其結果カ各同種又ハ別種ノ罪名ニ觸ルル場合モ亦一行為一罪タルノ性質ヲ失ハス、反之、若シ多數ノ行為カ多數ノ罪名ニ觸ルルトキハ數罪ナリ。  
 斯クノ如ク多數ノ行為カ各罪名ニ觸ルルトキハ數罪ヲ成立セシムルヲ原則トスルモ法律ハ時トシテ之ヲ合シテ一罪トスル場合アリ。  
 法律上多數ノ行為ヲ一罪トスル場合。

(A) 連續犯

連續犯ニ就テハ一行為一罪說ヲ採ル論者中ニモ異論アリ一派ノ學者ハ連續犯ハ數行為カ單一ノ結果ヲ生セシメ其行為ノ性質カ同一ニシ

テ總テノ行爲カ同一法益ニ對シ同種ノ方法ヲ以テ實行セラルル場合ニシテ前掲(乙)ノ場合ニ該當スト説明シ、他ノ一派ノ論者ハ連續犯ハ多數ノ行爲ヨリ成ル數罪ナリ、法律ノ規定ニヨリテ合一セラルルノミ決シテ前記(乙)ノ場合ト混同スルヲ許サスト主張ス(後段連續犯ノ性質參照)

B 結合犯

(B) 結合犯

二箇以上ノ行爲カ各獨立シテ別箇ノ法益ヲ侵シ多數ノ不法行爲トナリ得ヘキトキハ法律上一罪トス、例ヘハ強盜罪(竊ト脅迫)強盜強姦罪(強盜罪強姦ノ場合ノ如シ)

C 牽連犯

(C) 牽連犯

(イ) 一ノ行爲カ他ノ犯罪行爲ノ手段トナルトキ(竊盜ノ手段トシテ放火シタル場合)  
(ロ) 一ノ犯罪行爲カ他ノ犯罪行爲ノ結果ナルトキ(殺人犯者カ死體ヲ遺棄スル場合同如キ)

D 慣行犯

(D) 慣行犯

慣行犯トハ法律カ常業又ハ常習トシテ或行爲ヲ爲スコトヲ罪トスル

第二結果標準說

第二 結果標準說

場合ヲ云フ、連續犯ハ之ヲ組成スヘキ一箇ノ行爲ニヨリ一ノ犯罪ヲ成立セシムルモ慣行犯ハ其一ヲ探レハ罪トナラサルカ又ハ別罪ヲ構成スル場合ノ如キヲ云フ例ヘハ官許ヲ得シテ私ニ醫業ヲナス罪又ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス罪ノ如シ。

以上ハ行爲標準說ニヨル一罪數罪區別ノ標準ナリ、之ニ對シテ結果標準說アリ。

行爲ハ只タ犯罪的決心ヲ實行シテ犯罪の結果ヲ得ルノ手段タルニ過キサルカ故ニ手段ノ單一ナルト否トハ罪數ヲ決スルニ關係ナシ何トナレハ犯罪ハ行爲ナリト云フハ犯罪ト行爲トカ其單位ヲ一ニスルコトヲ示シタルニ非スシテ犯罪的決心カ外部行爲ニ表示ツルルコトヲ必要トスルコトヲ意味スルニ外ナラサルナリ、或ハ犯罪ハ刑罰ノ制裁ヲ附セラレタル有責違法ノ行爲ナルカ故ニ行爲ハ犯罪ノ基本ニシテ犯罪ノ數ハ行爲ノ數ニヨリ定メサル可カラスト主張スルモ法律カ犯罪者ニ對シ刑罰

制裁ヲ加フル所以ハ其行爲ガ特種ノ法益ヲ侵害スルカ爲メニシテ其行爲ヲ爲シタル犯人ヲシテ其行爲ヨリ生シタル各個ノ法益侵害ニ對シ其責ニ任セシムルモノニ外ナラス是レ法律カ各個ノ法益侵害ニ對シ特ニ正條ヲ設ケ之ニ固有ナル刑罰制裁ヲ設クル所以也於此乎各個ノ法益侵害ハ實ニ犯罪行爲ノ基本的要素ヲ形成スルモノナルカ故ニ犯罪ノ數ハ犯人ノ犯シタル法益ノ數カ單一ナルヤ否ヤヲ標準トセサル可カラス況ンヤ法律ハ此意ヲ表示スル爲メ數箇ノ行爲ヲ結合シテ一罪ヲ構成セシメ又ハ連續犯ノ觀念ヲ認メ以テ多數ノ行爲ヨリ生シタル犯罪ヲ一罪トスルニ於テオヤ故ニ罪ノ箇數ハ法益ノ個數即チ結果ヲ標準トシテ定メサル可カラスト。

此說ニ因ルトキハ前說ト反シテ法律上多數ノ行爲ヲ一罪トナスカ如キ例外ヲ認ムルコトヲ要セサル利益アリ。

意志標準

第三 意思標準說

犯罪ハ犯人ノ非社會性ノ發現ニシテ行爲ハ此性格ヲ表示スル手段タル

行爲標準  
說ニ對ス

意思標準  
說ニ對ス

ニ過キス又結果ハ此ノ性格ヲ證明スル條件ナリト雖モ犯罪ノ本質ニ非ス故ニ罪ノ箇數ハ行爲ノ數若シクハ結果ノ數ニヨリテ定ムヘキニ非スシテ犯罪ノ基本タル犯意ノ個數ニヨリテ定ムヘシト。即チ此ノ說ニヨレハ犯罪行爲ハ犯罪的決心ノ表示ニシテ決心單一ナルトキハ行爲ハ數個ナルニ拘ハラズ之ヲ一罪トシ數個ノ決心アルトキハ行爲ハ單一ナルニ拘ハラズ數罪ナリトスル說ナリ。

要之行爲標準說ノ根本タル犯罪ハ行爲ナリ故ニ行爲ト犯罪トハ單位ヲ同ウストノ論據ハ特ムニ足ラス特ニ意思活動ノ方面即チ客觀的ニ表ハレタル行爲ノミニ着眼シテ意思其モノヲ觀察セサル結果犯人カ一箇ノ行爲ヲ以テ二人ヲ殺スモ一罪トシテ處分セサル可カラサル論結ヲ生シ巧ミナル犯罪行爲者ニ利益ニシテ拙劣ナル行爲者ニ不利益ヲ及ホスノ弊アリ。意思標準說ハ理論ニ於テ敢テ缺點ナシトスルモ全然犯罪ノ客觀的要素タル結果ヲ排除スルノ結果犯意ノミアリテ結果ナキ犯罪ヲモ處罰セサル可カラサルニ至ル。

結果標準  
説ニ對ス  
ル批難

結果標準説ニ就テリストハ批難シテ曰ク、一行為爲數罪ヲ認ムルハ恰カモ一人ニシテ二箇ノ國籍ヲ有スル場合ニ二人ノ存在ヲ認ムヘシト云フニ類スト然レ共此ノ批難ハ當ラス何トナレハ既ニ一人ニテ二箇ノ國籍ヲ有シ得ルコトヲ認ムル以上ハ之ト同一理由ヲ以テ一行為爲數罪ヲ認メ得ヘケレハナリ而シテ結果標準説ハ一罪數罪ニ就テハ明劃ナル區別ヲナシ得ルカ如キモ全然犯人ノ主觀的要素タル意思ヲ排除スル點ニ於テ意思標準説ト反對ニ結果ノミアリテ犯意ナキ場合ニモ罪責ヲ認メサル可カラサルニ至ル於此乎即チ折衷説ヲ生ス。

第四折衷説

第四 折衷説

折衷説ハ犯意單一ニシテ結果モ亦單一ナルトキハ行為ノ數ノ如何ヲ問ハス一罪ナリ意思單一ニシテ結果數多ナル場合ハ數罪ナリ意思多數ニシテ結果單一ナルモ亦數罪ナリト。

結論

思フニ刑法理論ノ傾向ハ意思標準説ニ赴クヘキカ如シト云ヘ共現時ノ學界ニ於テハ折衷説ヲ採ラサル可カラス然レ共現行刑法ノ解釋論トシテハ

特別ノ規定アル場合ノ外ハ行為標準説ヲ採ラサル可カラス之レ立法者ノ意思ニ合致スルモノナレハ也。

第二款 連續犯

刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行為ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處断ス

連續犯ノ  
意義

連續犯ノ  
罪數

第一行為  
標準説  
其數罪

連續犯トハ連續シタル數個ノ行為ニシテ同一罪名ニ觸ルルモノヲ云フ。連續犯ノ性質如何換言スレハ連續犯ハ一罪ナリヤ數罪ナリヤニ就テハ幾多ノ見解アリ而シテ一罪數罪ノ區別ニ關シ行為標準説ヲ採ル者ノ間ニモ議論一定セス。

第一 行為標準説(其一)數罪説

犯罪ノ數ハ法律上特別ノ規定アルノ外常ニ行為ノ數ニ一致セサル可カラサルカ故ニ法律上明文ナキ場合ハ連續犯ヲ單一罪ト認ムルコトヲ得ス現行刑法第五十五條ハ單一罪トシテ處分スヘキコトヲ明ラカニスルニ止マリ其性質ヲ明規セス故ニ連續犯ハ數罪ナリト。

此見解ニ從フトキハ數個ノ打撃ヲ與ヘテ數個ノ創傷ヲ負ハシメタル場合ハ數罪ナリト云ハサル可カラス或ハ云フ數箇ノ打撃ヲ與ヘテ傷害ヲ與ヘタル場合ト連續行為ニヨル犯罪トハ其性質ヲ異ニスト然レ共數個ノ打撃ニヨリ數個ノ創傷ヲ負ハシメタル場合ト連續行為ニヨリ竊盜ヲナシタル場合トハ或ハ時間ニ長短ノ差アルヘシ行為ノ性質トシテハ何等ノ異ナル所ヲ見ス。

第二行為標準說其

第二 行為標準說 (其二) 一罪說

數個ノ行為ハ同一法益ニ對シ且ツ其犯罪ノ手段カ類似スルニヨリ其性質ヲ同ウスル場合ニ於テハ連續一罪ヲ構成スト同一主旨ノ判例アリ

大審院判例

大審院判例(明治三十八年度判例)要旨

或ハ同一ノ目的ヲ以テ同種同性質ナル數箇ノ所爲ヲ行ヒタルトキハ一罪トシテ處斷スト

第三結果標準說

第三 結果標準說

一罪數罪ノ區別ノ標準ニ就テ結果說ヲ採ルモノハ曰ク連續犯ニヨリテ

第四意思標準說

第四 意思標準說

侵害サルル結果ハ常ニ單一ナル一罪ヲ構成スト。

連續犯ニ於ケル數個ノ行為ハ其故意若シクハ決心カ單一ナル故ニ於テノミ一罪ヲ構成スト同一趣旨ノ判例アリ。

大審院判例

大審院判例(明治三十八年度)要旨

或ハ一個ノ意思ヲ繼續シテ數個ノ犯罪行為ヲ行ヒタルトキハ一罪トシテ處斷スト。

第五折衷說

第五 折衷說

結果カ單一ニシテ犯罪ノ意思責任カ單一ナル故連續一罪ヲ認ムルヲ可トスト同一趣旨ノ判例アリ。

大審院判例

大審院判例(明治三十九年度判例)

犯人ガ一ノ犯罪ヲ行ハントスル決心ヲナシ其決意ノ實行上犯罪既遂ニ必要ナル數個ノ所爲ヲ爲シタル場合ニ其各所爲カ互ニ相連續シ犯人カ當初目的トシタル範圍内ニ於テ此等ノ行為ヲナシタルモノナルニ於テハ各個ノ所爲ハ獨立ノ犯罪ヲ構成セスシテ相共ニ一罪ヲ構成ス而シテ其行為ノ目的場所

第二卷 後編 第二章 連續犯

第七章 犯罪ノ態様 第三節 一罪及數罪論

ノ異同ハ之ヲ問フノ必要ナシト。

斷定  
連續犯ノ  
要件

予輩ハ一罪數罪ノ區別ニ關スル理論ヲ一貫スル點ニ於テ折衷說ニ贊セ  
ントス從テ連續犯タルニハ左ノ要件ヲ要ス。

第一被害  
法益ノ單  
一ナルコト

第一 被害法益ノ單一ナルコト。

被害法益ノ何タルカハ各種ノ犯罪ニ就テ細密ナル研究ヲ遂ケサル可カ  
ラス而シテ其法益カ單一ナリヤ否ヤノ標準ハ屢キニ說述シタル所ナリ

(一罪及數  
罪論參照)

第二 意思ノ單一ナルコト

意思ハ一個ノ法益ニ對スル一回ノ侵害ヲ觀念スル場合及一個ノ法益ニ  
對スル侵害ヲ繰返ス觀念アル場合ニ於テ單一ニシテ結果ハ單一ナル意  
思ノ内容ヲ構成スル侵害行為ニヨリ生スルモノニ限リテ單一ナリ故ニ  
數個ノ法益ヲ侵害スル意思アルトキ又ハ同一法益ニ對スル侵害力繼續  
セサル個々ノ意思ナルトキハ共ニ數個ノ結果ヲ認メサル可カラス(此ニ

結果中ニハ危  
險ヲモ包含ス)

第二意思  
カ單一ナ  
ルコト

過失犯ニ  
連續犯ア  
リテ  
客觀說

即チ數個ノ行為カ連續一罪タルニハ犯罪ノ意思及結果カ俱ニ單一ナル  
コトヲ要ス而シテ數個ノ行為カ何レモ同一ノ罪名ニ觸ルルコトヲ要スル  
ハ敢テ論ヲ俟タス。

一 過失犯ニ連續犯アリヤ

過失犯ニ連續犯アリヤ否ヤハ議論ノ區々タル所ナリ。

客觀說 連續犯ノ意義ヲ全然客觀的要素即チ行為ノミニ因リテ決定セン

トスル學說ニ從フトキハ過失ニヨル行為モ亦行為ノ一態様ナルカ故ニ  
本問ヲ肯定セサル可カラス。

主觀說

主觀說 連續犯ノ意義ヲ主觀的ニ觀察シ連續行為ニヨル法益ノ侵害ニ對  
シテハ包括的故意ヲ要ストノ學說ニ從フトキハ過失ハ故意ノ概念ト相  
反撥スルモノナルカ故ニ本問ヲ否定セサル可カラス。

折衷說

折衷說 場合ヲ分チテ論スル說ニ從フトキハ本人カ結果ヲ豫見シタルモ  
其行為ノ違法ニ就テ錯誤ニ陥リタル場合ニ於ケル過失犯ニアリテハ連  
續犯ヲ存シ結果ニ就テ錯誤ノ存スル場合ニ於ケル過失犯ニアリテハ連

續犯ヲ認ムルコトヲ得スト。

違法ノ認識ヲ故意ノ要素トスルトキハ此說ニ左袒スルコトヲ得ルモ  
違法性ニ關スル錯誤ハ故意ヲ阻却セス從テ過失ヲ存セスト云フ通說  
ニ從フトキハ折衷說ヲ採用ス可カラス。

要之本問所決ノ前提タル學說ノ孰レヲ採ルカニヨリテ或ハ主觀說ヲ  
取ルコトヲ得ヘク或ハ客觀說ヲ採ルコトヲ得ヘシ予輩ハ連續犯モ犯  
行ナルカ故ニ過失ニヨル連續犯アリト認ムルモノ也而シテ法律カ過  
失犯ヲ罰スルハ各本條ニ規定スルトキニ限ルカ故ニ罰スヘキ過失ニ  
ヨル連續犯モ亦各本條ニ照合シテ斷定セサル可カラスト信ス。

二 持續犯

持續犯ノ  
意義

連續犯ト相似テ而シテ其性質ヲ異ニスルモノアリ持續犯之レナリ。

持續犯トハ一個ノ法益ヲ一個ノ行爲ヲ以テ持續的ニ侵害スルニヨリテ  
成立スル犯罪ヲ云フ(例ハハ監禁  
如シ)

連續犯ト  
ノ差異

連續犯ト異ル點ハ連續犯ハ各個ニ一罪ツツヲ構成シ得ル數個ノ行爲カ

連續犯ノ  
分

間過的ニ屬々繰返サルルニヨリ一團ノ罪トナルニ反シ持續犯ハ一個ノ  
行爲ニヨリ生シタル不法狀態カ間斷ナク維持セラルル點ニ於テ異ル。  
或ハ持續犯ヲ解シテ一定ノ不法行爲ナル積極的行爲及ヒ之ヲ原狀ニ回  
復セサル消極的行爲トノ二要素ヨリ成立スト説明スル學者アルモ是レ  
不當ノ觀察ナリ何トナレハ其所謂消極行爲ハ積極行爲ノ結果タルニ過  
キスシテ原狀ニ回復スル迄ハ常ニ持續スルモノナレハナリ。

三 連續犯ノ處分

連續犯ハ一罪トシテ處分スヘキコトハ法律ノ命スル所ナルカ故ニ諸種  
ノ關係ニ於テ之ヲ分割シテ觀察スルヲ許サス。只タ確定判決アリタル場合  
ハ犯罪ノ連續ヲ中斷スルモノト解セサル可カラス蓋シ確定判決後ニ於ケ  
ル犯罪ハ確定判決以前ノ犯罪ト別個ノ犯罪トシテ觀察セラレ前犯罪トノ  
關係ニ於テ累犯關係ヲ生シ犯罪トシテノ價值ヲ異ニスルニ至レハナリ從  
テ確定判決前ニ於ケル連續犯ハ行爲ノ一部ノミニ就キ起訴アリタル場合  
ニ於テモ全部ニ就テ審理シ若シ又一部ニ就キ確定判決アリタルトキハ其

餘分ニ就テハ新タニ科刑スルヲ得ス。

持續犯結合犯及集合犯ハ連續犯ノ觀念ト其性質ヲ異ニスルモ一罪トシテ處分セラルヘキ點ニ至ツテハ全然同様ナリ(明治三十七年大審院判決錄一七二頁參照)

### 第三款 競合犯及牽連犯

#### 刑法第五十四條

(一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルレ又ハ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處断ス。第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス。第

數個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ヲ實質的競合犯ト稱シ、一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ヲ想像的競合犯ト云ヒ、犯罪ノ手段タル行為若シクハ犯罪ノ結果タル行為カ他ノ罪名ニ觸ルル場合ヲ牽連犯ト稱ス。

舊刑法ニ於テハ其孰レノ場合タルヲ問ハス數罪トシテ處分シタルモ新刑法ニ於テハ特ニ第五十四條ニ於テ想像的競合犯及牽連犯ヲ數罪ノ場合ト區別シテ規定シタルカ故ニ一罪トシテ處分スヘキモノナリヤ否ヤニ就

實質的競合犯  
想像的競合犯

牽連犯

競合犯及牽連犯ハ一罪トシテ處分スルコトナリ  
數罪處分  
一罪處分

テ議論アリ。

數罪處分論者ハ第五十四條ハ第一併合罪ノ章程中ニ規定セラレタルコト第二次條ニハ一罪トシテ處断スヘキ旨ヲ明記スルモ本條ニハ之ヲ缺クコト從テ連續犯ハ數罪トシテ處分スヘキモノナリト説キ、一罪處分論者ハ若シ數罪處分論者ノ主張スルカ如ク數罪ヲ認メタルモノトスルトキハ一罪前ニ發覺シ既ニ判決ヲ經タル後他ノ罪名發覺シタル場合ニ於テハ其處分ニ關シ例ヘハ舊刑法第百二條ノ如キ規定ヲ存セサル可カラス、若シクハ之ヲ別個ニ判決シタルトキハ執行ニ關シ新刑法第五十一條ノ如キ規定ヲ存セサル可カラサルニ之ヲ欠如スルカ故ニ刑法ハ一罪トシテ處分スヘキコトヲ認メタルモノナリト説ク。

參考 (舊刑法百二條一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發覺シ其輕刑ニ通算ス云々以下略)

兩說ノ是非ハ容易ニ定メ易カラスト雖予輩ハ本條ノ場合ヲ以テ一罪ナリトスル說ニ左袒シ一個ノ罪名ニ付テ既ニ判決ヲ經タルトキハ後日他ノ



罪名發覺スルモ之ヲ審理スルコトヲ許ササル精神ナリト解セント欲ス。

第一 想像的競合犯

想像的競合犯ニハ異種ノ想像的競合ト同種ノ想像的競合トアリ例ヘハ一九ニテ數人ヲ殺害スル場合ハ同種ノ想像的競合犯ニシテ一九ヲ以テ人ヲ殺シ且ツ他人ノ器物ヲ毀壞シタル場合ハ異種ノ想像的競合犯ナリトス而シテ法典ニ所謂一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ハ即チ異種ノ想像的競合犯ヲ指稱スルモノ也蓋シ同種ノ想像的競合犯ニ於テハ特別ノ規定ヲ要セスシテ適用スヘキ單一ノ法規アレハ也。

想像的競合ヲ以テ一罪ナリト認ムルトキハ第五十四條ハ純然タル法條競合ニ關スル場合ナリ法條競合ニ對シテ準法條競合ト稱スヘキ場合アリ準法條競合ニアリテハ五十四條ノ規定ニヨルコトナク一般ノ法理ニヨリテ適用スヘキ法條ヲ決ス其主ナル場合ヲ掲クレハ左ノ如シ。

一 普通法ト特別法トノ關係

一 普通法ト特別法トノ關係 一法條カ他ノ法條ニ對シ特別規定タル場合ニアリテハ特別法ハ普通法ニ優先ス而シテ此原則ハ獨リ一般法令ト

刑罰法五十四條ハ純然タル法條競合也

二 主本法ト補充法トノ關係

特別法令トノ間ニ存スルノミナラス同一法令中ニ於ケル各本條間ニモ存在ス即チ各本條間ニ於テハ複雜法ハ單純法ニ優先シ變態法ハ通態法ニ優先ス。

三 實害法ト危險法トノ關係

二 主本法ト補充法トノ關係、或ル法條カ他ノ法條ノ缺所ヲ補充スル爲メニ設ケラレタル場合ニ於テハ主本法ハ補充法ニ優先ス。  
三 實害法ト危險法トノ關係 實害法ハ危險法ヲ吸收ス故ニ同一行為ニ付キ既遂罪トシテ處罰スルトキハ未遂又ハ豫備ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス。

四 獨行法ト附隨法トノ關係

四 獨行法ト附隨法トノ關係 獨行法ハ附隨法ヲ吸收ス故ニ例ヘハ一人カ同一行為ニ就キ正犯トシテ處罰セラレルトキハ教唆又ハ從犯ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス。

第二 牽連犯

第一 或犯罪ノ手段タル行為カ他ノ罪名ニ觸ルルトキ此ノ場合ニ於テハ一罪トナルヤ數罪トナルヤハ抽象的ノ理論ニ依ルト

第二卷 後編 第七章 犯罪ノ態様 第三款 競合犯及牽連犯

犯罪ノ態様 第三節 一罪及數罪論

第二卷 後編 第七章 犯罪ノ態様 第三款 競合犯及牽連犯

キハ一箇ノ疑問ナリト雖予輩ハ第五十四條ノ規定ハ二者ノ合一ヲ認メタルモノト解スルカ故ニ一罪トシテ處罰スヘキモノト信ス。

或ル犯罪ノ手段ヲ買入ルル爲メ金銭ヲ窃取シ其金銭ニヨリテ兇器ヲ買入レ遂ニ其目的ヲ達シタル場合ニ於テモ其竊取行爲ハ殺人行爲ノ手段タル行爲ナリト云フコトヲ得

ヘシト雖殺人罪ヲ犯サントスル希望カ乙罪ヲ犯スノ動機トナルモ動機ハ犯罪ノ成立及ヒ法定ノ處分ニ何等ノ影響ナキヲ原則トスルカ故ニ斯クノ如キ廣キ解釋ヲ採用スルハ穩當ナル見解ニ非ス。

狭義ノ解釋

案スルニ法律カ或ル犯罪ト其手段タル犯罪行爲トヲ同一罪トスルハ其開始ト分離ス可カラサル關係ノ存スルニ因ルモノト解スルコトヲ要ス。從テ犯罪ノ手段タル行爲トハ犯罪ノ實行手段タル行爲ノミニ限ルモノニシテ其犯罪ノ構成要件ニ屬スルモノニアラサル行爲タルコトヲ要ス。例ヘハ屋内竊盜罪ニ於テハ竊盜ノ手段トシテ他人ノ住居ニ侵入セザ

二) 或犯罪ノ結果タル行爲トキハ他ノ犯罪ノ結果タル行爲トキハ別トキ

ル可カラス此場合ニ於テ家宅侵入ナル他ノ罪名ニ觸ルル行爲ハ即チ竊盜罪ノ手段タル行爲ニシテ他人ノ家宅ニ侵入スルニ非ラサレハ屋内竊盜罪ヲ構成セス即チ家宅侵入ト屋内竊盜トハ犯罪ノ實行上分離ス可カラサル關係ヲ有ス斯ル關係アル場合ニ於テノミ犯罪ノ手段タル行爲ト云フコトヲ得。

第二 或犯罪ノ結果タル行爲カ他ノ罪名ニ觸ルルトキ

或ル犯罪ノ結果タル行爲トハ或ル犯罪ノ手段タル行爲ト同シク其犯罪ノ構成要素ニ屬セサル行爲ニシテ而カモ其犯罪ノ當然ノ結果タル行爲ヲ云フモノ也例ヘハ殺人罪ニ於テ死體ヲ遺棄スルカ如キハ殺人罪ノ構成要素ニ屬セサル行爲ニシテ且殺人罪ノ當然ノ結果タル行爲ナルカ如シ。

之ヲ一面ヨリ觀察スルトキハ例ヘハ遺棄ハ殺人罪ノ結果タル行爲ナルモ他ノ一面ヨリ觀察スルトキハ殺害ハ遺棄ノ手段行爲也然レ共殺害ハ遺棄ノ實行手段ニ非ラサルカ故ニ遺棄ヲ殺人罪ノ結果タル行爲ト認ム

ルヲ正當トス。

犯罪後ニ於テ其犯跡ヲ掩ハンカ爲メニスル犯罪ハ別罪ヲ構成ス例ヘハ竊盜ノ犯罪ヲ掩ハンカ爲メニ放火シタル場合ノ如シ故ニ此ノ場合ハ前場合ト區別スルコトヲ要ス判例アリ。

大審院判例

大審院判例(明治三十一年判決)要旨。

郵便爲替券ヲ竊取シ之ヲ變換行使シテ金員ヲ收受シタルトキハ竊盜及ヒ官文書偽造行使罪ヲ構成ス。

### 第三 想像的競合犯及牽連犯ノ處分

想像的競合犯及牽連犯ヲ以テ合一的一ノ一罪ナリト爲ストキハ數個ノ罪名ニ對スル數個ノ刑ニ就キ何レヲ適用スヘキカノ問題ヲ生ス法律ハ其尤モ重キ刑ヲ以テ此等ノ合一的一ノ罪ヲ處斷スヘキモノナリト規定ス最モ重キ刑トハ數個ノ罪名中最モ重キモノニ對スル刑ニ從ツテ處斷スルノ意味ニシテ法定刑ノ範圍内ニ於テ出來得ル限り重刑ヲ選ミ其極度ニ於テ處斷スヘントノ謂ニ非ス。

重キ刑ニ  
ヨリテ處  
斷ス

或犯罪ノ手段又ハ結果タル犯罪行爲ト其主タル犯罪トハ合一シテ一罪ヲ構成スルカ故ニ總テノ關係ニ於テ單一的ニ觀察スヘク分離シテ處分スルコトヲ得ス故ニ例ヘハ時効ノ如キモ其最後ノ行爲ノ時ヨリ起算シ其最モ重キ罪刑ニ從フテ期間ヲ定メサル可カラス。

### 第四款 併合罪

併合罪ノ  
意義

刑法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ就キ確定裁判アリ併合罪トハ確定裁判ヲ經サル前ニ犯サレタル數罪相互ノ關係ナリ。或ハ數箇ノ犯罪カ同一審級ニ於テ俱ニ發覺シ同時ニ審判ノ目的トナルコトアリ或ハ或罪ノミカ先ニ發覺シテ確定裁判ヲ經タル後他ノ罪カ發覺スル場合アリ何レモ併合罪ノ關係ヲ生ス然レ共確定裁判前ノ犯罪ト確定裁判後ノ犯罪トノ關係ハ累犯ニシテ絶對ニ併合罪ノ關係ヲ生セス。

併合罪ノ  
處分

併合罪ノ處分(刑法第四十六條乃至第五十三條參照)  
併合罪ノ處分ニ關シテハ三主義アリ。

第一吸收主義

第一吸收主義 此主義ハ數箇ノ犯罪中一ノ重キニ從ツテ處斷スルヲ原則トス舊刑法ハ此ノ主義ヲ採用シタリ然レ共此ノ主義ニ依ルトキハ一旦罪ヲ犯シタルモノハ其後之ト同等若シクハ之ヨリ輕キ罪ヲ幾度犯スモ同一ノ處分ヲ受クルニ止マルカ故ニ同等以下ノ數罪ヲ獎勵スルノ結果ヲ生ス。

第二併科主義

第二併科主義 此ノ主義ハ各犯罪ノ刑罰ヲ併科スル主義ナルカ故ニ吸收主義ノ如キ弊害ナシト雖モ數箇ノ死刑又ハ死刑ト無期刑トヲ併科スルカ如キハ事實上不能ナルノミナラス又長期間ノ自由刑ヲ併科スルトキハ其刑期幾十年ノ久シキニ亘リ頗ル苛酷ニ失ス。

第三制限加重主義

第三制限加重主義 此ノ主義ハ一定ノ標準ヲ求メテ或ル刑罰ヲ併科シ或ハ一罪ニ吸收セシム。我新刑法ハ原則トシテ併科主義ヲ採リ場合ニヨリ制限加重主義ニ從ヒ或ハ吸收主義ニ從フ左ノ如シ。  
(a) 罰金刑ト他ノ刑トハ併科スニ箇以上ノ罰金ハ其合算額ヲ以テ長期ト

新刑法ハ原則トシテ併科主義ヲ採リ  
制限加重主義ニ從フ

ス但シ併合罪中ノ罪ニ付キ死刑ニ處スヘキトキハ死刑ト罰金刑トヲ併科スルコトヲ得ス(第四十條)科料及沒收ハ併科ス。

(b) 自由刑ハ制限加重主義ニ從フ即チ併合罪中二箇以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス(第四十條)合算期間内ナリト雖モ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス(第四十條)

(c) 死刑ト他ノ刑罰又ハ無期刑ト他ノ自由刑トハ吸收主義ニ從フ(第四十條)併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス(第五十條)未タ裁判ヲ經サル罪カ數箇ナル場合ハ其數箇ニ就キ併合罪トシテ處斷ス。

若シ併合罪ニ就キ二箇以上ノ裁判アリタルトキハ同條ノ趣旨ヲ貫徹スル爲メ其刑ヲ併セテ執行スルヲ原則トス管死刑ヲ執行スヘキトキハ沒收ヲ除クノ外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スヘキトキ

ハ罰金、科料及沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ハ其最モ重キ罪ニ就キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス(第五十條)

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者カ或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ、特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム(第五十條)此ノ規定ノ適用アル場合ハ吸收主義ノ場合及ヒ併合刑ヲ以テ處斷セラレタル場合ニ其併合刑中ノ一ニ付キ大赦アリタル場合ニノミ關スルモノニシテ初メヨリ併科サレタル場合若シクハ別個ノ裁判ニヨリテ各別ニ刑期カ確定セル場合ニ於テハ本條ノ適用ナシトス。

### 第五款 累犯

(刑法第五十六條乃至第五十九條)

犯ノ意

確定判決ヲ經タル犯罪ト確定判決後ノ犯罪トノ關係ヲ累犯ト稱ス。總テ犯罪人ハ科刑的豫戒ヲ無視スル非社會性ヲ有スルモノ也然レ共其間

十九世紀  
刑法學  
界ハ累犯  
ノ豫防ニ  
力ヲ注シ  
リ

又自ラ程度ノ差異アリ一旦刑辟ニ觸ルルトキハ衷心悔悟シテ良民トナルモノアリ反之科刑ヲ無視スル累犯者ハ社會ヲ侵害スルコト最モ大ナル惡性ヲ有スルモノ也於此乎累犯續出ノ豫防策トシテ刑罰加重ノ一般的原因トナスヘキカ將タ特別原因ト爲スヘキカニ就テハ諸國ノ立法例必スシモ同一ニアラスト雖十九世紀博愛主義ノ學說唱導サレ博愛主義ニヨリテ立法サルルニ至リシ以來累犯ノ續出甚タ多ク殆ント十九世紀ノ刑法學界ハ累犯ヲ如何ニシテ豫防スヘキカヲ以テ燒點トシ特別處分ヲ要ストスル點ニ就テハ殆ント異論ナシ而シテ斯クノ如ク累犯ヲ嫌惡スル所以ハ累犯ハ往々常況犯罪性ヲ特標スルカ爲メ也蓋シ累犯ト雖必スシモ初犯ニ比シテ危險ナリト云フ可カラサル場合ナキニ非ス於此乎累犯嚴罰ノ法制ハ其犯罪カ他人ノ法益ヲ無視シ犯罪ヲ常業ト思考スルカ如キ深固ナル犯罪性ノ特標ナルヤ將タ又出獄後社會良民ニ齒スルコト能ハサル結果トシテ生活資料獲得ノ不能若シクハ著シキ困難ニ抵抗スル手段ノ欠缺又ハ偶然ノ機會ニ原因シタルヤ否ヤヲ以テ刑罰裁量ノ標準點トナササル可カラス換言

累犯ト機  
會

累犯ト常  
ノ理由

スレハ累犯嚴罰ノ法制ハ累犯カ慣行犯タルヘキ場合ニ於ケル豫防策ニシテ機會犯タル場合ニ於テハ必スシモ嚴罰スルコトヲ要セス。

累犯ノ要件

一 累犯ノ要件

(一) 懲役ニ處セラレタルカ(ロ)懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタルモ其免除ヲ得又ハ懲役ニ減輕セラレタルカ(ハ)又ハ曩キノ併合罪中懲役ニ處スヘキ罪アリタルカ其一二處ルコト。

後ノ犯罪ニヨリ有期懲役ニ處スヘキ場合ナルコト。

蓋シ如何ナル犯罪ニ於テモ累犯ヲ認ムヘキヤ否ヤハ新刑法ノ如ク累犯ヲ以テ一般的加重原因ナリトスル法典ニ於テ特ニ考究ヲ要スヘキ問題ニシテ舊刑法ニ於テハ如何ナル犯罪ニ於テモ累犯トシテ處罰シタルモ累犯嚴罰ノ理由カ既ニ慣行的犯罪性ノ抑壓ニアル以上ハ總テノ犯罪ニ就テ此ノ關係ヲ認ムルノ必要ナキカ故ニ新刑法ハ特ニ懲役ニ處セラレ又ハ處セラルヘキ場合ニ付テノミ累犯關係ヲ認メタリ。

(二) 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五年以内ニ犯シタル

常況的犯罪ノ前カ  
罪性ナルノ前カ  
故ニナルノ前カ  
執行ニシタル  
年內タル

コト。

前犯ト後犯トノ間ニ於ケル日數ニ付テハ制限ヲ付セサル法律アリ舊刑法ノ如キ即チ之レ也然レ共累犯ハ前犯後久シカラサル期間内ニ發生スルモノ最モ多ク又斯ノ如キ場合ニ於テ常況的慣行性ヲ養成スルノ虞アルカ故ニ新刑法ハ五年以内タルコトヲ條件トセリ。

而シテ累犯關係ヲ認ムルニハ刑ノ執行ヲ終リタルコト又ハ免除ヲ得タルコトヲ要件トセリ舊刑法ニ於テ確定判決後ニ於ケル犯行アレハ即チ累犯トシテ處斷シタリト雖刑罰ノ效果ノ有無ハ刑罰執行ノ後チニ非ラサレハ判知シ難キカ故ニ新刑法ハ此ノ條件ヲ必要トシタリ。

大赦又ハ刑ノ執行猶豫ノ完成ハ執行ヲ免除スルニ止マラスシテ處刑ノ全效果ヲ滅却スルモノナルカ故ニ其犯罪ヲシテ累犯ノ基礎タラシムルヲ得ス。

(三) 累犯ノ處分

累犯ハ法定刑ノ長期ノ二倍ニ至ル迄加重スルコトヲ得但シ二十年以上

二累犯ノ處分

ニ上ルコトヲ得ス。

累犯ヲ如何ニ處分スヘキカハ十九世紀刑法學界ノ大問題タリシナリ舊刑法ノ如キハ初犯ノ刑ニ一加重ヲ認メタルニ過キサリシカ新刑法ハ全然此ノ規定ヲ改正シ前掲ノ如キ處分方法ヲ認メタリ。

累犯嚴罰ノ法制ヲ採ルモ裁判ノ際僞名其他ノ原因ニヨリ累犯者タルコトヲ發見セサル爲メ初犯ノ刑ヲ科シ裁判後ニ至リ累犯者タルコト發覺スル場合勅カラニ舊刑法ニ於テハ斯ノ如キ場合ニ處スル規定ナカリシカ新刑法ハ此ノ場合ニ於テハ更ラニ刑ヲ加重スヘキコトヲ規定シタリ(第五十八項)思フニ此ノ規定ハ刑事法ノ大原則タル一事不再理ノ大原則ヲ打破シタル新立法ナリ然レ共一旦執行ヲ終リ又ハ此執行ヲ免除シタル後ニ發見セラレタル者ニ對シテハ此ノ規定ヲ適用セス(第五十八條第二項)

### 犯罪論終

明治四十二年十月十二日印刷  
明治四十二年十月廿六日發行

犯罪論 奥付

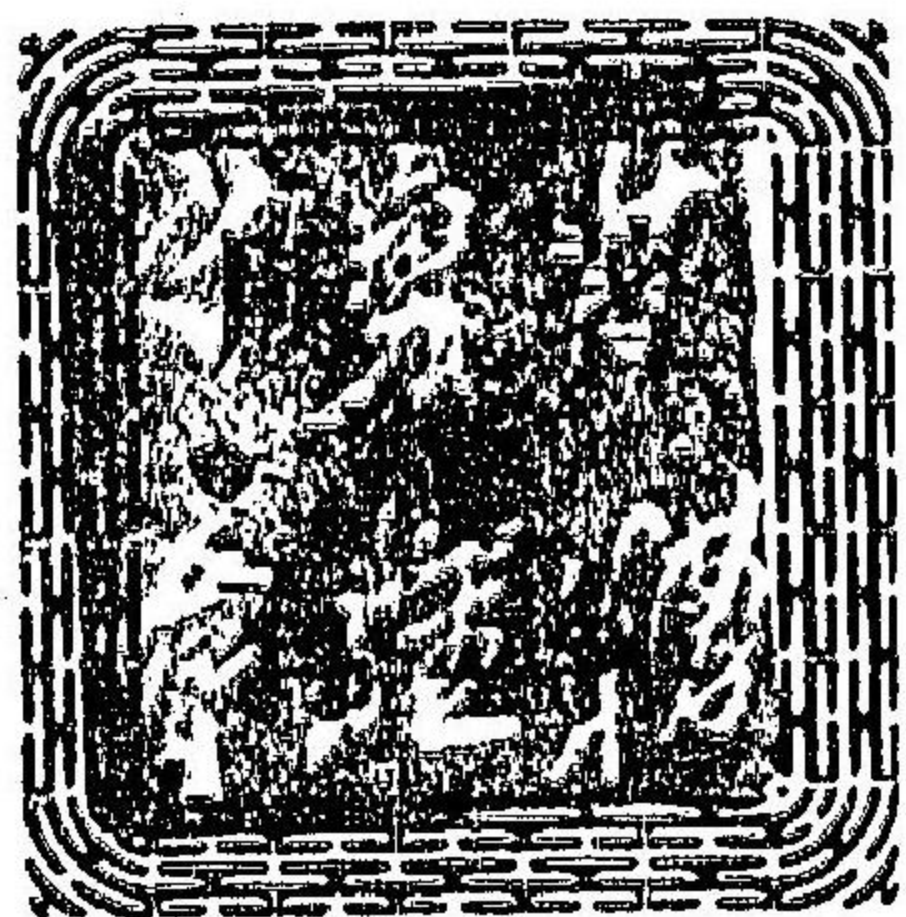
定價金壹圓七拾五錢

著者 甘糟勇雄

發行者 合資三書樓  
東京市神田區南神保町二番地

右代表者 波多野重太郎

印刷者 山田英二  
東京市小石川區久堅町百八番地



發行所 發兌元

東京市神田區南神保町二番地 合資三書樓  
電話本局第三三五四番  
振替口座第六五五六番

東京市神田區南神保町二番地 合資三書樓  
電話本局第三三五四番  
振替口座第六五五六番

福岡伯監修  
巖松堂書店編輯部

新版

法律經濟論題輯覽

(一名專門學者論說索引)

冊數 六代  
拾 錢 四 送料 錢

本書ハ專門雜誌三十餘種數千冊ニ登錄セラレタル法律經濟ニ關スル大家ノ論說ノ題號ヲ教科書的ニ彙別類聚シ各題號ノ下ニ論者ノ氏名雜誌名、年號、卷數及號數ヲ掲ケテ其索引ノ便ヲ計リタルモノナレハ講法家及ヒ實際家ノ机上ニ缺クヘカラサル珍寶ナリ

明治大學

再版

法制經濟大意

一 上製九拾五錢 八 錢

本書ハ一般國民ニ法律及經濟ノ概念ヲ與ヘ併セテ科學者ノ階梯ヲラシメシメニ著述セラレタルモノニシテ法制大意ノ部ニ於テハ去權、國權、政體、臣民ノ權利義務等ヲ始メトシテ總テノ公法私法ノ大要ヲ説明シ經濟大意ノ部ニ於テハ貨幣、爲替、公債、銀行、租稅等ニ關スル理法其他經濟財政ニ關スル諸事項ヲ簡叙セラレタルモノナリ

法典質疑會

新版

法典質疑錄

三 一冊五拾錢 各六錢

上卷(憲法、行政法、刑法、民法) 中卷(民法下卷) 下卷(商法、刑事訴訟法、民事訴訟法、破産法、競賣法、裁判所構成法)

一本書ハ法學志林第一號ヨリ第百三號(四十二年三月)ニ至ル十箇年間發表ノ質疑問答ヲ區別輯録シタルモノナリ  
一法學志林ノ質疑問答ハ法政大學校友及ヒ法典質疑會々員ノ提出シタル疑問ニ對シ各專門學者カ一々明快ニ答辯シ與ヘラレタルモノナリ  
一本書ノ解答者ハ梅、宮井、寛谷、岡村、岡野、岡田、仁井田、志田、加藤、川名、横田、寺尾、副島、中村、秋山、堀津、山田、清、岡松、山口、磯田、二十博士及ヒ上杉、牧野、菊之助、英一、谷野、豐島、松岡、小崎、泉、三松、本利、若田、山田、佐竹、鈴木、英太郎、其他數十ノ學士ナリ

中央法律學館

六版

法科受驗問答

一 參拾五錢 四 錢

法學博士 岸本辰雄

二十版

法學通論

一 上製四拾錢 八 錢





本書ハ運轉機ノ方法ニ依リ各條毎ニ其意ヲ精解及改正ノ理由等ヲ説明セラルルモノニシテ殊ニ其特色トモ稱スヘキハ各條下ニ「字義」ナル一欄ヲ設ケ新刑法ニ於テ始メテ用ヒラレタル法律ハ勿論尙クモ刑法ヲ研究スル者ノ先ツ知ラントナ要スル法律ヲ説明シ以テ容易ニ條文ノ意義ヲ知ルヲ得ルヲシメラレタルナリ

法曹閣書院  
 司法官試補篠原三郎  
 判事大脇熊雄  
 法學士牧野英一  
 法學士牧野英一  
 法學士草刈融  
 明治大學  
 中央法律學館  
 法學士及二新編法學士牧野英一  
 法學士谷野格監出  
 法學士甘糟勇雄

新式解法	監獄法義解	刑法講義	刑法講義	刑法講義	刑法講義	刑法原理研究書	犯罪論
新編	改正	改正	改正	改正	改正	改正	改正
論	義解	講義	講義	講義	講義	研究書	論
綱	義	案	案	案	案	書	論
一	一	一	一	一	一	一	一
七製	四拾	壹圓貳拾	八拾	七拾	參拾	貳拾	參圓
製	拾	貳拾	拾	拾	拾	拾	拾
圓	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
八拾	四	八	拾	八	四	四	拾
貳	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

司法省參事官大場茂馬  
 法律日日社  
 大山文雄  
 司法省參事官大場茂馬  
 司法省參事官大場茂馬

刑罰論	日本新舊刑法	刑事政策根本問題	刑事政策大綱
對照	對照	對照	對照
論	論	論	論
一	一	一	一
七製	壹圓貳拾	壹圓拾	壹圓拾
製	拾	拾	拾
圓	錢	錢	錢
八拾	四	四	拾
貳	錢	錢	錢
錢	錢	錢	錢

犯罪ノ發生ハ如何ナル原因ニ基クカ犯罪及ニ其原因ト連連スル社會政策ヲ如何ニ料理スヘキカ抑モ亦犯罪ノ檢察刑罰ノ法定、刑罰ノ執行如何ニスヘキカ大凡此等ノ諸問題ハ皆刑事政策學ノ分野ニ屬スルモノニシテ以テ犯罪ノ撲滅減少ヲ講スヘキ任務ヲ有スル所以ナリ

著者ハ我邦ニ於ケル刑事政策學ノ大家ニシテ特ニ刑事政策學ノ專攻ヲラルル學者ナリ其西歐ニ遊學中夙ク既ニ斯學ニ關スル一書ヲ公刊シテ歐洲ノ學界ニ一大聲ヲ與ヘ噴ケタル也名ヲ博セリシキ術來遊學益々深ク今ヤ刑事政策學ノ完成ヲ企圖セラレ其第一卷トシテ茲ニ本書ノ發行ヲ告グルニ至レリ蓋シ此種ノ著作ハ我邦ニ於テハ本書ヲ以テ創作ト爲スヘキモノナリ故テ當路ノ有司並ニ愛國愛民ノ士ノ座行ニ遊焉

東里二六四ク 著者ハ我邦ニ於テ刑事政策學界ノ重鎮ナリ精敏ナル研究ヲ遂ケテ時急ヲ濟フノ資ニ供セントス、幸讀請速ニシテ購論又明晰、可及的整理空論ヲ避ケテ斷案ヲ事實問題ノニ置キ其眞實ノ言論ヲ以テ敢テ正統刑法學派ノ爲メニ吐ケリ

司法省參事官大場茂馬  
 判事 田山卓爾

個人識別法  
 刑罰論  
 刑罰論

壹圓五拾錢  
 壹圓拾錢  
 壹圓拾錢

八  
 八  
 八

錢  
 錢  
 錢

凡ノ新舊法通過ノ時代ニ在リテ新法施行上種々ノ難問ヲ生スルハ數ノ免カレサル所ニシテ之ニ解決ヲ與フルモノハ即チ經過ノ規定タ  
ル施行法ナリ然ルニ經過法ナルモノハ由來限ル難解ノ法條多ク專門學者ト雖モ人々其見解ヲ異ニスルハ往々目撃スル所トス殊ニ新刑  
法ハ全然無派ノ思想ヲ棄テテ一躍新派ノ學理ヲ採用シタルヲ以テ舊法ト新法トハ其内容ニ甚ダシキ懸隔アリ從テ刑法施行法ニ於テ  
モ特種ノ規定頗ル多ク到底專門家ノ解説ヲ缺タサルハ之ヲ解シ得ヘキニ非サルナリ本書ハ刑事法ニ堪能ノ公開高田山判事カ其明瞭  
ナル頭腦ヲ以テ得意ノ筆ヲ呵シテ詳細大ニ新法ノ真髓ヲ闡明セラレタルモノニシテサシモノ難解ナル法條モ本書ナ一掃過スレハ頗  
ル明白ニ理解ヲ感得スヘシ今ヤ刑事事初ニ關係アルノ士ニ取リテハ刑法ノ研究ト共ニ新法ノ研究ハ急務中ノ一大急務ニ屬ス本書ハ即  
チ此等人士ノ指針タリ俾伴タルニ庶幾カラシカ

法學博士 遠藤源六 版三 刑法施行法評釋 一 並製 壹圓五錢 八八 錢錢

刑法施行法ノ規定ニ通セザレハ以テ刑法ヲ完全ニ運用スル能ハス然ルニ同法ハ語簡意深ニシテ容易ニ其内容ヲ知ルヲ得サルハ學者ノ  
定論ナリ本書ハ海軍刑法及同施行法起案ノ必要上同法ヲ詳細ニ研究サレタル著者カ條ヲ逐ヒテ其意義精神ヲ闡明シ且ツ立法ノ當否ヲ  
論評セラレタルモノナレハ刑法運用ノ術ニ當ル諸士ハ勿論苟クモ刑法ヲ研究スル者ノ必讀スヘキ良書ナリ

法學士 緒方惟一 耶 小田明次 版六 正刑 事 訴訟 法 義 解 一 並製 壹圓五錢 八拾 貳 錢錢

東京控訴院 團野新之 版新 損害 賠償 論 一 貳圓貳拾五錢 拾五 錢

私法中其關係スル所最モ汎ク又最モ複雜ナル多數ノ難問ヲ藏シ學者及ヒ實際家ノ共ニ研究ヲ難ニスル所ノモノ一損害賠償ニ屬スル  
法理ニアラスヤ著者團野新之ハ明治二十八年中一度英法ヲ其礎トセル損害賠償論ヲ著シテ學界ヲ裨益セラレタリシカ爾後我法  
典ノ成ルニ及ヒテ更ニ潛心研論ニ熱中セラレルコト十數年稿ヲ改ムル十數回今ヤ功成リテ茲ニ本書ヲ公ニセラル  
本書ハ債務不履行ニ因ルモノト不法行為ニ因ルモノトナ併セ論シタルノミナラス苟モ損害賠償ニ關係アル凡百ノ問題ハ細大漏サス論  
決シタルヲ以テ民法、商法其他ノ無形財產法等皆私法ノ全部ニ滲リテ詳細論說シテ復々餘蘊ナシ殊ニ本書ノ特色トスル所ハ判例ニ重  
キヲ措キテ徒ラニ空理ニ奔スルコトヲ避ケ諸國ノ法制ヲ參照シテ博引旁證讀者ヲシテ具サニ首肯セシメサレハ已ミサラントスル點ニ  
在リ致テ學者及實際家諸賢ノ必讀ヲ請フ

法學士 牧野菊之助 版新 本日 親 族 法 論 一 並製 壹圓七拾五錢 八拾 五 錢錢

時事新報日ク 民法施行セラレテヨリ、之ニ關スル著書ノ出テタルモノ未ダ多カラズト雖モ、前三編ニ關シテハ逐條的註釋ヲ施  
シタルモノ、組織的ニ說明ヲ加ヘタルモノ、又ハ單編ノ論又ナト大ニ見ルヘキモノ、數多アリ、採ツテ學者ノ參考ニ資スルヲ得ヘ  
キモノ、唯リ後ノ二編、即チ親族法相續法ノ研究ニ至リテハ、殆ト全ク因却セラレタルモノアリ、從來ノ著書ニシテ稍々見ルニ足  
ルヘキモノハ、梅氏與山氏ノ逐條的註釋書アルノミ、而シテ單編ノ論文ハ間々諸學術雜誌ニ散見スレトモ、之ヲ前三編ニ關スル論  
文ト比スル時ハ、唯タリ數ノ稀少ナルノミナラス其價值ノ如キモ亦數等ノ下位ニアリト云フコトヲ得ヘシ。組織的註釋法ニヨリ、實  
全編ニヨリ統一的ノ概念ヲ撰フルモノニ至ツテハ實ニ本書ヲ以テ嚆矢トス。由來此部分ノ研究ハ、前三編ノ範圍ナルニ比シ、實  
質ノ見アルハニヤ、趣味ヲ以テ斯法ノ研究ニ從ヘルモノ、甚タ少キカ如シ。然ルニ今此等ニ接ス、眞ニ空谷ノ足音タリ。著者ハ趣  
味ヲ、抱テ人事法ヲ研究スルコト幾星霜、其得ル處ノ大ナルハ素ヨリ偶然ナラス。氏ノ篤學ハ眞ニ欽慕スルニ堪ヘタリ  
先ヅ緒論ニ於テ、親族法其モノニ付章ヲ六ニ分チテ論述セルヲ見ル。親族法ノ概念、位置、性質、淵源、效力編制ノ如何ナ知ラ  
シムルヲ目的トスルモノニシテ其說明ノ簡ニシテ盡セル、遺憾ナシト云フヘシ。次ニ親族權ノ性質ヲ說キ之ト財產權、又ハ人格權  
ト相異セル所以ヲ述ヘタリ。然レトモ其說明ハ餘リニ簡單ニ過キテ、只々其相違セル要點ヲ舉グルニ止マレラナリテ、未タ此編ト  
民法ノ他ノ部分トノ關係ヲ研究スルノ資料トナスニ足ラサルハ惜シムヘシ。緒論ノ終リニ身分登記、及ヒ戶籍ニ說キ及ホシタルハ  
多トスル處ナリ。蓋シ親族關係ニ於テハ其手續法ハ殊ニ重要ナルカ故ナリ。本論ニ入りテハ先ツ親族及ヒ家ノ二者ニ付キ、極メテ  
精緻ナル說明ヲ施シ、次ニ法典ノ分類ニ從ヒ、順次、婚姻、親子、親權、後見、親族會及ヒ扶養ノ義務ニツキ、是レ亦詳密ナル解釋  
ヲ加ヘタリ。其說明中、舊規、慣習、大審院判決例、司法省民刑局長ノ回答ヲ引用シ、一方ニ於テハ此等ノ論評スルト同時ニ現行  
法上學者ノ難問トスル處ヲ明カニシ、又一方ニ法理ノ不備缺陷ヲ指摘スルノ點ニ於テ、大ニ力ヲ致シ、殊ニ民法施行前ニ於ル法制  
ト、現行法トノ關係ヨリ來タレル疑問ニ觸カフヲ、大ニ意ヲ注ケルノ用意、紙上ニ歷トシテ讀マル。親族法ノ現在ノ研究トシテハ  
間然スル處ナシト云ヒテ可ナラン。多キヲ望メハ諸外國ノ法制トノ比較、及ヒ將來ノ研究ニアレトモ、是レ蓋シ本書ノ目的ニアラ  
サルヘケレハ今茲 旨ハス。要スルニ親族法ノ論理的演述トシテハ管々現在ニ於ルノミナラス蓋シ將來ニ於テモ亦良書タルノ稱ヲ  
失ハサルヘク、蓋シ斯道ノ攻究者ニトリ最好ノ參考書タリト紹介シテ疑ハサルナリ(明治四十二年二月三日文藝週報第一四二號所  
載)



法學士 岩田 一郎

再版

民事訴訟法原論

一 參圓 參拾錢 貳拾錢

本書ハ多年民事訴訟法運用ノ實物ニ當リ、傍ラ各私立大學ニ於テ同法ノ講座ヲ擔任セラルル著者カ、其豐富ナル學識ト、多年ノ經驗トニキ、學理上實際上ヨリ同法ヲ詳説セラレタルモノナリ。實務家學生及諸試験ニ應セントスル者ノ座右ニ缺クヘカラサル真著ナリ、本書ニハ民事訴訟法、人事訴訟手續法ノ條文索引ヲ卷尾ニ附シ讀者ノ便ヲ圖リタリ

法學士 高木 豐三

十二版

民事訴訟法論綱

一 上製 貳圓九拾錢 貳拾參錢

判事 佐藤 重之

三版

強制執行論

一 壹圓貳拾錢 拾五錢

●競賣申立 附屬書類 ●執行方法 競賣開始決定 ●手續ノ取消 ●手續ノ進行 競賣實施 ●配當要求 ●競落 競落決定 ●執行異議 ●執行停止 ●抗告 ●代金配當 ●手續完結 ●追奪擔保

現今執行手續ニ於ケル實際ノ狀態ハ表面ノ争闘ヨリモ寧ロ裏面ノ暗闘激甚ニシテ權利者ハ其優勝ナルヲ恃ミ溢ニ義務者ノ弱點ニ乘シテ貪婪飽ヲ所ヲ知ラサラントシ義務者ハ又偽計奸策巧ニ敵手ヲ弄シテ弱カニ快哉ヲ叫ハントシ立憲ノ治下仍ホ此強食弱肉ノ陋態ヲ實演セラレツツアルナリ此ノ如キハ狡猾者流カ相手方ノ執行法規ニ通セサルヲ見テ奇貨措クヘシト爲シ不干渉主義ノ袖ニ隠レテ其弊惡ヲ逞フスルモノニアラスシテ何ソヤ凡ソ眞ノ勝利ハ最終ノ一瞬時ニ在リ執行手續ニ於ケル争闘ハ權利ノ争ニ於ケル最終ノ決戦ナリ此手續ニ於テ實果ヲ收ムルヲ得スルハ百ノ勝訴ノ判決モ畢竟何スルモノゾ

著者ハ多年東京區裁判所ノ執行部ニ在リテ夙ニ令聞アリ常ニ世間實際家ノ多クカ執行手續ニ暗キテ概シ之方頗聞タリ師傳タルニ足ルヘキ完壁ナル強制執行論ヲ著ハサントスルノ意アリ故ニ其第一卷トシテ不動產強制競賣編ヲ上梓セラレ既ニ第參版ヲ重ネタリ其自序ノ一端ニ曰ク「施行法ヲ論スルノ再二三ナキニアラサルモ(中略)執行法ハ即チ手續法ナルカ故ニ學理ヲ論スルト共ニ實際ノ手續ヲ講

スルノ必要アリ而シテ斯ノ如キノ書ハ世間未ダ其類ヲ見ス是レ余輩カ非オナ願ミスシテ敢テ本書ヲ載スルノ舉ニ禮テタル所以ナリト以テ其内容如何ヲ想像スルニ餘リアルヘシ

法學士 松岡 義正

新版

人事訴訟手續法講義

一 上製 四拾錢 四錢

法學士 横田 五郎

新版

非訟事件手續法講義

一 上製 壹圓四拾錢 八錢

法學士 三宅 德聚

新版

競賣法講義

一 上製 八拾錢 八錢

法學士 吾孫 子勝

新版

公證人法論

一 貳圓五拾錢 拾五錢

長谷川 平次郎

新版

公證人法論

一 貳圓五拾錢 拾五錢

本書ハ單ニ公證人法ノ講義ニ止マラスシテ汎ク公證制度ニ關スル總テノ法令ニ涉リ解説詳密ヲ極ム故ニ日常頻繁ニ生スヘキ法律問題ハ本書ニヨリテ始メテ理解スルコトヲ得ヘシ殊ニ本書ニ附録セル證書文例ハ一切之ヲ網羅シタルヲ以テ公證人辯護士各位其他有毛法律事務ニ從事セラルル各位ニハ無二ノ好參考書タルヘク銀行會社員其他各種ノ取引ニ從事シ又ハ財産ノ安固ヲ圖ラントスル各位ニハ唯一ノ問題書タルヘシ

法學博士 井上 密校關

再版

土地收用法要義

一 壹圓 八錢

明 治 大 學

再版

國際法規提

一 參拾五錢 四錢

法學博士 遠藤 源六

再版

戰日露國際法論

一 參圓 貳拾錢

日露戰爭中ニ生シタル國際法問題ニ關スル幾多ノ實例ハ將來國際法規研究ノ最重要ナル資料トナルヲ以テ學者ハ勿論當局者及通商航

海業者ハ之カ研究ヲ爲スコト最モ肝要ナリ本書ハ同業中始終各種ノ國際法關係問題ニ參照シ研究サレタル著者カ戰爭中ノ事例ヲ詳説シテ之ニ各國ノ法令ノ異同ヲ先例等ヲ參照論評セラレタルモノナレハ何人ト雖モ必讀スヘキ良書ナリ

農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
農商務省 宿利英治  
秋好善太郎  
廣松堂書店編輯部

工業所有權論

特許法及其手續詳解  
實用新案法及其手續詳解  
意匠法及其手續詳解  
商標法及其手續詳解  
耕地整理法要義  
耕十法全書

壹圓貳拾錢  
八錢  
四錢  
錢

改正監獄法發 以來幾多ノ附屬法令發布アリタルモ來タ一冊ニ輯録シタルモノナシ弊店之ヲ遺憾トシ司法野德一氏ニ囑託シ依憑シ今上梓功成ル本書ハ實務ニ練達セル編者ノ嚴正ナル等ニ成リタルモノニシテ印刷ノ鮮明ナル校正ノ精密ナルハ特ニ本書ノ誇リトスル所ナリ而シテ其收ムル所附法及ヒ附屬新法令進ニ參考諸法令ノ全部ヲ網羅シテ流漏ナシ故ニ本書一冊ヲ備フレハ優ニ他ノ書類數冊ヲ備フルニ相當スヘシ監獄當局ノ土ハ勿論有モ之ト關係アルヲ奉セラルル諸彦ノ座有一日モ缺クヘカラサル寶典ナリ

帝國監獄法典

壹圓貳拾錢  
八錢  
四錢  
錢

明治大學  
明治大學  
宇都宮政市  
法律日日社

舊刑法、刑事訴訟法及附屬法令正文

法例民法及附屬法令正文  
國籍法、商法及附屬法令正文  
役區町村諸願届手續詳解

參拾錢  
四拾五錢  
四拾錢  
八錢  
六錢  
一冊六拾錢  
一冊六錢

第一卷(明治四十四年) 第二卷(明治四十一年) 第三卷(明治四十一年) 第四卷(明治四十二年)

第一卷	第二卷	第三卷	第四卷	計
大審院 東京控訴院 大阪控訴院 名古屋控訴院 廣島控訴院 長崎控訴院 宮城控訴院 東京地方裁判所 行政裁判所 合計	民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 合計	民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 合計	民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 民事刑事 合計	三三二 一七九 一四三 一七二 一四三 一四三 一四三 一四三 一四三 一四三

坂井正知  
法律新聞社

新版三版

大理院判決要錄

二八拾錢六錢  
一壹圓五拾錢拾貳錢

本書ハ明治三十三年發行ノ法律新聞第一號ヨリ同四十一年二月發行ノ第四百七十八號迄ニ登載セラレタル判決要旨ヲ各科目毎ニ部門ヲ設ケ更ニ各法條ノ節款ニ分チテ編纂シテ大家ノ寄稿ニ係ル判例批評ノ要旨ヲモ加ヘ索引ノ簡易ト實際ノ活用トニ便セリ蓋シ此種ノ書籍中最新一頭地ヲ拔キ一異彩ヲ放ツモノニシテ法曹諸賢ハ勿論官公署、會社、銀行等ニ必備ノ要書ナルコトヲ確信ス

法學博士 梅謙次郎

新版

新判例批評

一壹圓八拾錢拾貳錢

法學博士 志田鈿太郎  
法學博士 粟津清亮  
警視廳 小田明次郎  
巖松堂書店編輯部

新版

保險判例集

一壹圓八拾錢拾貳錢  
一壹圓  
一參拾五錢四錢

本書ハ巡査ノ地位及待遇、巡査採用方法、巡査志願手續、巡査採用試驗、巡査部長採用方法、警部並ニ消防士ノ地位及待遇、警部消防士採用方法、考試試驗等ニ關シ然モ流暢ニ且ツ明快ノ筆ヲ以テ之レカ說明ヲ爲シ傍ラ試驗ニ課セラレタル實地試驗問題ヲ掲載シ之ヲ應答者ノ爲メニ極メテ親切ニ極メテ叮嚀ニ其應答準備並ニ心得ヲ說明セラレタルモノ也

組織

新版

警察官吏受驗提要

一參拾五錢四錢

巖松堂書店編輯部

新版

外交官受驗提要

一參拾五錢四錢

外交官志望者ノ羅針盤タラントナリトシテ外交官試驗合格者カ自己ノ經驗ニ徴シテ一切ノ準備及心得ヲ親切叮嚀ニ説述セラレタル筆記ニシテ累年ノ試験問題及外交官ニ關スル法令ヲモ輯録シタルハ將來外交官タラント欲スル士ハ本書ニ依リテ學校ノ選擇其他ノ注意ヲ受ケルコトヲ得ヘク又既ニ學校ヲ卒業シタル士ハ本書ニ依リテ受驗中ノ心掛及試験ノ程度其他ノ必要事項ヲ知ルコトヲ得ヘシ

法學士 原田重光

新版

普通文官登用試驗準備書

一六拾錢八錢

三里芳次郎

新版

稅者之顧問

一五拾錢四錢

巖松堂書店編輯部

新版

高等文官外交官試驗問題集

一五拾五錢六錢

本書ハ明治三十年ヨリ最近ニ至ル十二年間ノ高等文官、外交官、判檢事、辯護士、東京市帝國大學、京都帝國大學、法政大學、明治大學、中央大學、日本大學等ノ試験問題ヲ悉ク網羅シテ之ヲ各科目ニ分類シ更ニコレヲ編纂節款ニ細別シテ學理的教科書的ニ編纂セシモノナレハ秩序整然トシテ法律學及經濟學全般ノ骨體ヲナシ恰モ羅針盤タルノ感アリ學生受驗者ハ勿論法曹警察官財務官教育官等ノ座右ニ缺クヘカラサル好學志士ナリ

明治大學

新版

四十年度試驗答案集

一四拾錢六錢

本書ハ諸試験ニ應セントスル者ノ答案作成ノ練習ノ便ニ供センカ爲メ判檢事辯護士試驗ニ及第シタル諸氏ノ答案(豫備試驗本試驗ヲ合セテ五十二件)ヲ編纂シ、加フルニ口述試驗ノ機構ヲ詳記シタル口述試驗ノ記、受驗者ノ心得、累年ノ試験問題ノ判檢事、辯護士、





明治大學編輯主任  
能 部 梅 士

理 學 士 松 村 定 次 郎

版 新 版 五

明 治 大 學 史

代 數 學 參 考 書

( 上 卷 )

一 參 拾 八 錢 六

錢

一 五 拾 錢 八

錢

數學研究ノ骨子ハ其應用力ノ養成ニ在リ、近時高等諸學校ノ入學試験ニ見ルモノニ應用力如何ヲ檢定スルヲ以テ主眼トセルカ如シサ  
レハ受験者ノ成功ト不成功トハ全ク應用力ノ養成如何ニ繫ガルト論定セサルヘカラス  
著者ハ過去十年間四都ニ於ケル各種專門學校ニ出テテ受験者教育ノ面ニ當リ數學教授法上ヲ見セラレタル所鮮カラス本書ハ即チ其編  
得新式ノ教授法ヲ遺傳ナク發揮シテ高等諸學校入學受験者ノ爲ニ最近十二年間各官立學校入學試験問題中ノ難問ヲ解説シ數學研究ノ  
捷徑ヲ招キタルモノナレハ受験者ハ勿論中學生諸彦ノ机上ニ一日モ缺クヘカラサル要書ナリ

男 祝 梅 太 郎 校

遺 稿 海

舟

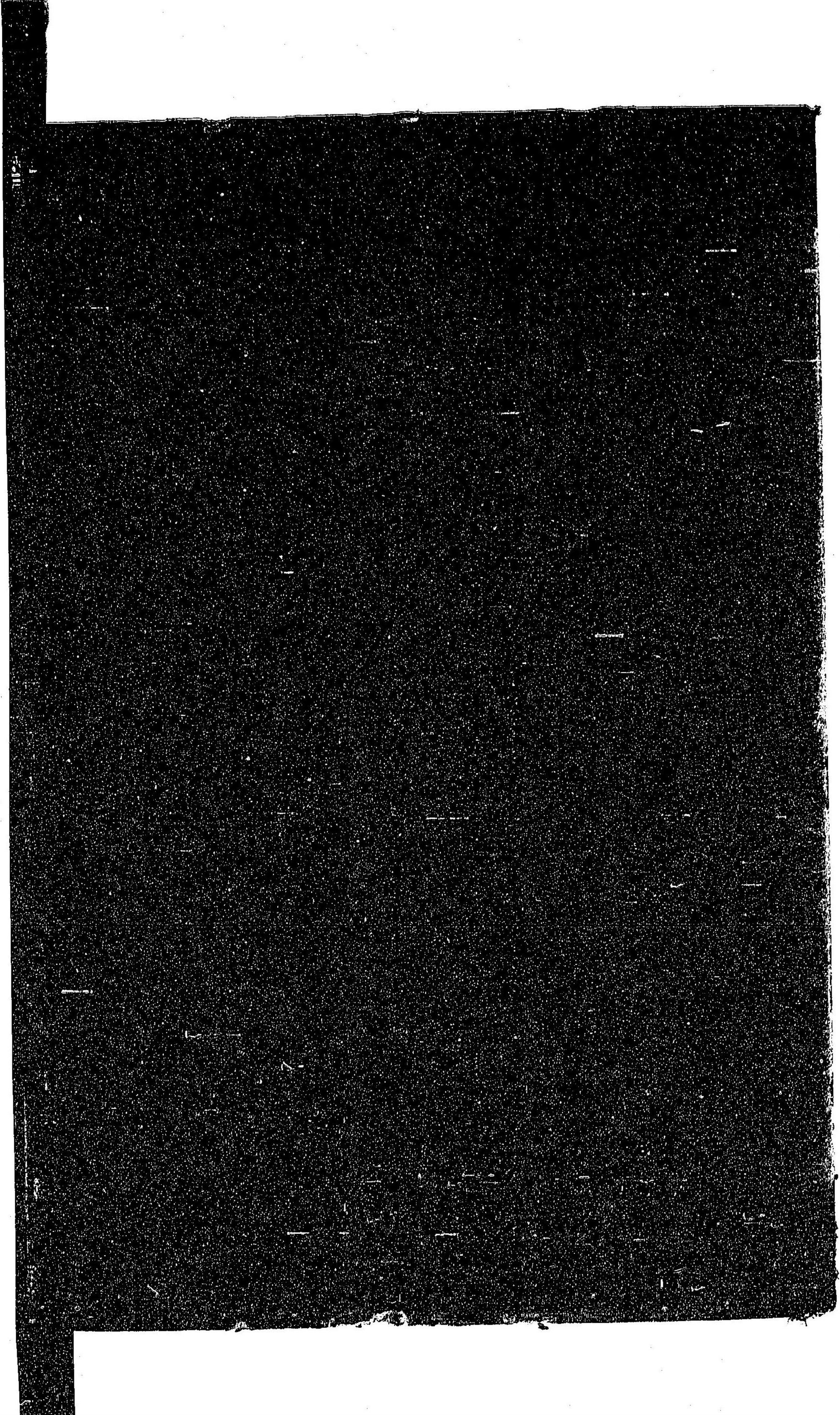
日

誌

一 壹 圓 貳 拾 錢 拾 貳 錢

91

215





036168-000-2

91-215

犯罪論

甘糟 勇雄 / 著

M42

BBP-0835



